

若手教師パワーアップセミナー

「元気が一番」塾 夏期研修会

日 時 平成17年（2005年）8月19日（金）～20日（土）

場 所 兵庫県民会館 10F「福」

神戸市中央区下山手通 4-16-3 TEL078-321-2131

（地下鉄「県庁前」下車すぐ、JR 元町駅北へ徒歩5分、三宮から徒歩 15 分）

日 程

19日（金）	13:00 受付	17:00 終了
--------	----------	----------

13:15～「学級づくりワンツースリー」講師 仲島正教（元気が一番塾主宰）

☆子どもが生きる学級づくりのポイントをわかりやすく学習します。

15:15～「ディズニーからの伝言」 ゲスト講師 大路 亨（元小学校長）

☆ディズニーランドの精神と学校教育の関係を探ります。教職員やPTAの間で話題になっている人気の講演です。

（17:30～懇親会）

20日（土）	9:00 受付	12:00 終了
--------	---------	----------

9:15～「子どもが生きる体育学習」講師 仲島正教（元気が一番塾主宰）

☆ボールゲームを例に出して、体育学習の中で子ども同士がどうつながり、どう成長していくかを考えます。

※ 講師紹介

・大路 亨

現 西宮市人権・同和教育協議会事務局

元 西宮市立北夙川小学校長。西宮市教育委員会学校保健課長等歴任。校長時代、「ぬくもり」を学校教育目標に掲げ、教師・子ども・保護者・地域を温かくつなぐ学校経営を行う。また自らディズニーランドに向き、従業員やホテルマン等と話しながら、ディズニーの魅力を研究し、学校とディズニーを絡めた講演は大好評である。平木小の生徒指導担当時代、どんなにゴンタな子も大路先生にだけは「大路センセイ」と決して呼び捨てにしなかったという逸話が残っている。

・仲島正教

現 若手教師パワーアップセミナー「元気が一番」塾 主宰

元 西宮市教育委員会指導主事5年間、西宮市内小学校教師21年間「元気が一番」塾だけではなく、教育サポーターとして、兵庫県を中心にしながら、西日本各地で講演活動も行っている。

学級づくりワンツースリー

仲 島 正 教

1. 出会いを大切に。 「今度の先生、なんか変や、けど・・・」
 - ・最初のあいさつは、めっちゃ考えるで。
 - ・この先生と一緒にすごしたい、そんな出会いを。
 - ・2学期初日、「さあやろう！」と思わせるための秘策は。
2. お花のお礼とうんこの処理はどうするか。 「今度の先生、ええんちゃう」
 - ・子どもが教室に花を持ってきてくれました。そのお礼は。
 - ・うんこをもらしちゃった・・・ああどうしょう？
3. 子どもが牛乳をこぼしました。 「さあ、ここからです」
 - ・給食は仲間づくりの絶好の機会。牛乳ビンが倒れたら、それはチャンス到来！
 - ・気分が悪くてもどしちゃった。さあ、どうしましょう？
 - ・おしっこは汚いの？それともきれい？
4. 「優しい」という字の意味を子どもから教えてもらいました。
 - ・学級経営の基本は、人権教育です。
 - ・人権を学ぶとは、「人と人のつながりの豊かさ」を学ぶこと。
 - ・クラスで一番しんどい状況にある子が輝いているか。
5. かまぼこ先生はダメ！ 「この先生なら話してもいいかな」
 - ・先生と子どもが離れていれば、心も離れていく。はいつくばらにゃ。
 - ・子どもが来なければ、自分が行けば距離は縮まる。簡単なこと。
 - ・子どもはこんな時にしゃべり出すのです。
6. 魅力ある懇談会に。 「この先生の話、また聞きたいなあ」
 - ・おみやげのある懇談会に。何をおみやげにしよう？
 - ・歌とダンスがある懇談会って変かな？
 - ・具体的な子どもの話が出れば、絶対に親は懇談会に来る
7. 男女仲よくというけれど・・・。「はじめは嫌だったけど、今は楽しいよ」
 - ・いつも男女を意識していますか、先生が。
 - ・男女混合名簿だけでは変わらない。そのあとが大切！具体的な動きが必要。
 - ・「男女仲よく」は学級づくりの大黒柱です。

8. 学級づくりは、子ども理解に始まり、子ども理解に終わる。

「先生、ボクのこと、よう知ってるわ」

- ・気づいたら記録する習慣を。「記録」は子どもも親も教師も伸ばす大事なもの。
- ・困ったり、悩んだりした時は「とにかく遊べ」が鉄則。若い先生は遊ぶのが仕事。
- ・「教育」とは「今日行くこと」。教育は足でかせぐもの。5分間家庭訪問のすすめ

9. 学級通信のすすめ。 「私たちのことがのってるで、私らもなかなかなもんやね」

- ・クラスのことを「書くこと」によって「気づき」、「書くこと」によって「伸びる」
- ・学級通信をたくさん出す秘訣は「思ったことはすぐに書く」
- ・子どもに気づく「教師のアンテナ」を磨く。

10. 学級づくりは授業づくりから。 「授業のうまい先生になってや」

- ・授業づくりは教師の原点。子どもは授業で必ず変わる。
- ・授業を通して学級を育て、学級を通して授業を育てる。この二つは両輪である。
- ・リレーの学習で学級づくりができた。

11. ○○を通した学級づくり。 「ボクらのクラス、これすごいねんで」

- ・個性的な学級を創りたい。何かを徹底的にやりましょう。歌、マラソン、読書・・・
- ・友だちの喜びを自分の喜びとして感じられる仲間づくりを。授業の中で、行事の中で。

12. 連絡帳は家庭と学校をつなぐホットライン。 「連絡帳が交換日記みたい」

- ・連絡帳は、連絡を書くだけのものではない。
- ・保護者から10行の文が書いてあれば、10行以上の文を返す。印1個は最低！
- ・たまにはいいよ、タイガースのことも書いても・・・。

13. 子どもも一人の人間として認めることから。 「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

- ・西光万吉さんの教え 人間は尊敬しあうもの
- ・子どもから学ぶ姿勢を忘れない。
- ・すべての子どもは「先生、私をみて」って思っている

14. 教師が伸びることによって子どもも伸び、子どもが伸びることによって教師も伸びる

- ・教師の仕事は10のうち9はしんどいもの。でも残りの1のすばらしさを知るともうやめられない。教師冥利に尽きるこの仕事。
- ・勉強しない先生はいらないよ。熱の先生はやめてほしい。

15. 感動は、人間を優しく、温かく、強く、大きくしていく。 「オレ、涙出てもうた」

- ・子どもが創った「最後の授業」
- ・教師びんびん物語 田原俊彦先生の「一人ひとりへの卒業証書」の実践
- ・卒業試験～人間のいいもの順に並べ～ 「オレ涙出てもうた」

子どもが生きる体育学習

仲 島 正 教

1. 土谷体育との出会い

子どもの躍動を望むなら、教えないことです。

教師が指示・教示をして子どもたちが「出来た」と喜んでいる姿は躍動ではありません。

指導の半分は、がまんして待つことです。あと半分はグループにとびこむことです。

（元奈良女子大附属小学校副校長 土谷正規）

子どもは自ら学ぶ力を持っている。学習というものは教師が力づくで教授するものではない。あくまで子ども自らが進んで自分の学習に取り組み、学習の仕方を工夫し、学習する力を身につけ、自分の力で自分の道を力強く歩んでいくことができるようにすることである。（奈良女子大附属小学校教諭 岩井邦夫）

教師たちの教えようとする意志が、教師を盲目にし、教育を破壊し、子どもを殺している。教えることに気を取られ、目の前にいる子どもの内にうごめいているものが見えなくなっているのだ、いや見ようとしていないのだ。（元宮城教育大学学長 林竹二）

楽しさということですが、探求への積極的な参加、さらに教師から与えられたというよりも自分で自分に課した容易でない課題を解く努力、その努力の中に、友だちや先生も一緒に参加してそれをやった。そしてついにその糸を解いたという経験。これが子どもにとっての楽しいということの最も本質的な内容ではないかと思うのです。（林 竹二）

2. 体育の学習で育てたいこと ～未来に生きる力～

体育の学習で大切なことは、運動技術の習得だけでなく、運動やそれに関連する行動を自分でとらえ、どう乗り越え、高めていくかの過程である。教師がハウツー式の指導で跳び箱を全員跳ばせ、子どもたちが大喜びしたとしても、これは、子どもの大切な学習過程がとんでしまっている。どうしたら跳べるだろう、もうやめたい、でも友だちが励ましてくれる、先生も見えてくれる、苦しいけどやってみよう、という子ども自身の試行錯誤や心の揺れ、喜び等の共有体験が大事なのである。この大切な学習過程の中にこそ、「生きる力」や「心の教育」がある。体育科の授業が削減された中、今こそ、この部分に光をあてなければならないと思う。体育とは「行動の力」を育てるもの、そして「未来に生きる力」を育てるものである。

3.「教えない」体育の実践 ～5年2組型バスケットボールの授業～

① H子「私はバスケットなんか大嫌い！」

この子に「バスケット大好き！」と言わせたい ここからスタート

②「教えない」そんなバスケットの学習ができるのか

だまされたと思って、とにかく「教えない」指導をやっていく

③とにかく記録する、とにかく子どもの動きを記録する

すると、不思議と子どもの心の中が見えてくる、そして子どもが動き出した

④W子「こっちに入れてもいいんや」 敵のゴールに入れるW子

そんなW子の行動がみんなを変えた。これはおもしろい！

⑤自分たちでルールをつくると、自分たちでルールを守る

あたえられたラインではなく、自分たちでひいたラインが出来る

⑥学習のめあては「よいチームをつくろう」

どんなときでも、いつもここにもどってくる

⑦ワンマンプレーのS男が変わっていく

あいつにシュートを決めさせたい！ そのためにオレはこう動く

⑧チームプレーのおもしろさを体感していく

パスがつながるとおもしろい、こうすると合作シュートは決まるんだ

⑨10時間計画が20時間になってしまった

でも子どもは育った。子どもは変わった、生活が変わった

⑩「協力し、助けあって見つける楽しさ」を学ぶと、算数でも教え合う仲間になる

H子「バスケット大好き！もっとやりたい」

※ 私が考える「教えない」指導のポイントは

- ・ 子どもをしっかり見て、子どもの心の動きを読み取る（記録をとる）
- ・ 子どもが自分で考えて動ける学習を展開する（展開の工夫）
- ・ 友だちの動きを紹介する（友だちの動きから学ぶ）
- ・ 動きを引き出す言葉かけをする（子どもの心を揺さぶる）
- ・ 子ども同士で教え合う（その機会と時間の確保）